

暮らす×シェア

TVの向こう側には楽しそうなシェアの暮らしがあるけど、
実際のところ、どうなの？本当に楽しいの？



暮らしてシェアすることは、世界を広げる第一歩。

今日も仕事が終わって、家に帰る。ご飯を食べてテレビを見て、風呂に入って、ベッドに入り、いつも通りの1日が過ぎていく。一人暮らしであれ、家族と住んでいる場所であれ、家は暮らしのベースとなるところ。居心地の良さや落ち着きは暮らしに欠かせないが、あまりにも度が過ぎるとそれはそれで何かしらの刺激がほしくなる。単身者や核家族の家では、アパートやマンションが暮らしの場所となっていることが多いが、建物の中での人付き合いが積極的に行われているケースはあまり聞かない。会えば会話をする程度か、何かのきっかけがなければ中々互いの深いところまで知る関係にはならないだろう。

大人になった今、暮らしの中で人とのつながりを持ちたいと思った時、「シェア」が一つのキーワードとなる。しかし、今回の企画で紹介する様々なシェア事情は、同じ部屋で家賃を削減するためだけに一緒に暮らす場所だけのシェアではない。誰と、どんな場所、どんな時間の使い方、どんな思いを持って暮らすのか。暮らしのシェアには、カタチだけにとまらない自分らしい生き方を模索し、自ら生活スタイルを確立させている住人の姿がある。そんな彼・彼女たちは心の底から暮らすことを楽しんでいる。

SOCIAL APARTMENT

ネイバース宮前平

友人以上、家族未満の仲間と人生を分かち合う暮らし

従来のワンルームマンションと、入居者が自由に利用できる豪華な共用部が一体となった新スタイルのマンション。それがソーシャルアパートメントだ。1人暮らし同様のプライバシーをキープしつつ、ほかの入居者と交流もできる“いいとこどり”の暮らしを覗いてみた。

写真/星野裕司(星野裕司 広告写真事務所) 取材・文/小川裕子



ネイバース宮前平は田園都市線・宮前平駅より徒歩7分の場所にある。某有名企業の社員寮だった物件をリノベーションしたという話にわがには信じられないほど、アパートメント内は洗練されている。上は共用部のロビーの写真。ニューヨークのミッドタウンにあるデザイナーホテルのようにシックかつラグジュアリーで、夜や週末は住人たちで賑わう。



Sound roomは、むき出しの配管やネオン管がニューヨークの裏路地のバーさながら。簡易防音されているので楽器演奏もOK。住人によるミニライブが開催されることもあるそう。



体を動かしたくなったらニューヨークのダウンタウンにあるヨガスタジオをイメージしたMULTI PURPOSE STUDIOへ。大きな鏡やヨガマット等が用意されていて、住人なら365日24時間、無料で利用可能。



ロビーには広々としたキッチンも併設されている。最新型のコンベクションオーブンやエスプレッソマシンもあり、機能性も抜群。料理好きたちが自慢の逸品を振る舞ってくれることもあるとか。

つながるほどに、人生の可能性が広がる

「やばい、超楽しそう！」。ネイバース宮前平の取材を終えた途端、カメランH氏がつぶやいた。その感想に取材スタッフ一同、激しく同意。それほど、楽しそうだったのだ。ネイバース宮前平は株式会社、社グロバリエーションが企画・開発・運営するソーシャルアパートメントの一つ。ソーシャルアパートメントとは聞き慣れない言葉だが、他人と生活空間の一部を共有するという意味では、シェアハウスのようなものといえる。ただ、共用部の豪華さは段違い。たとえばネイバース宮前平なら、200㎡のラウンジあり、マッ

サージチエアとフットバスを完備したスパルームありと設備が充実。住人の人数も桁違いで、現在80人以上が暮らしているという。とはいえ、部屋はワンルームが基本となっていて、さらにラウンジを通過して自室に行けるつくりになっているから、「プライバシーがないのでは？」なんて心配はいらない。グロバリエーションの社員であり、ネイバース宮前平の住人でもある石田兼司朗さんは、たくさんの人たちと交流しながら暮らすメリットをこう話す。「ここに暮らす80人以上の友人ができます。住

人の多くは社会人でキャリアも職種もバラバラ。悩みごとがあればいろいろ意見を聞けて、とても勉強になる。多くの人とつながるといことは、自分の人生の可能性が広がることでもあるんです」

族ほど寄りかからずに付き合える。職場でも家庭でもない場所にならした人間関係を持つことがどれほど貴重か、酸いも甘いもかみ分けた大人ならわかるだろう。ネイバース宮前平で暮らす人々の充実した表情に、人と人、人と暮らしているという関係の一つの理想形を見た気がした。



共用部はすべてニューヨークの街をイメージしてつくり込まれている。これなら毎日帰宅するのが楽しくなりそう。個室タイプのお風呂、シャワー・トイレもあり、「清掃は業者さんがしてくれるので、一人暮らしと比べて掃除の手間が省けるのも嬉しい」と住人は口を揃える。



住人と一緒にカフェをオープンしました

平岩 結夢さんは元は会社員。しかし今は、デンマーク出身の住人と一緒にオープンしたPNB Coffee(東京都目黒区)で店長をしている。「コーヒーについて話しているうちに意気投合してカフェを開くことになりました(笑)。ここでの1年は、過去の1年と比べても厚みがまったく異なります。せっかく多様な人間が揃っているのだから、これからは住人同士がスキルチェンジして助け合うような取り組みもやってみたいですね」



大人だからこそ距離感が心地いい

フリーの管理栄養士として活躍する川村 郁子さんが入居を決めた一番の理由は広々としたキッチン。「これほど広いキッチンがあるマンションなんてなかなかありませんから。試作した料理を食べて感想をもらえるのも魅力です」。入居して約1年になるが人間関係も快適だそう。「疲れているときや忙しいときは、食事や飲みのお誘いがあったりも断ります。みんな大人ですから、断って気まずくなることもありません。毎日楽しいです」



いろいろな人と人生を共有できる場所です

並木 洋輔さんも、ネイバース宮前平に入居して人生が大きく変わった一人。「仕事を辞めようかどうかずっと悩んでいたんです。みんな親身になって相談のようになってくれて、最終的には退職を決意しました。今は旅サイトのライターをしながら、昔からやっていた海外生活に向けて準備中です。ソーシャルアパートメントって、他人と人生を共有できる場所なんです。ここで暮らすようになってから人生のスピード感が全然違います」



ネイバース宮前平
神奈川県川崎市宮前区小平2-11-3
<http://www.social-apartment.com/builds/view/114>

石田さんはソーシャルアパートメントを“現代版長屋”と表現する。「隣に住んでいる人の顔がわかっている、何かあれば助け合える。そんな長屋の暮らしに“バック”デートする感じがすね。隣に誰が住んでいるかわからない生活よりも、近隣の人たちと関わりながら暮らすほうが日本人には合っているような気がします」



SOCIAL APARTMENT

ネイバース立川
(ネイバースランチ with パンとエスプレッソと)

Good morning, Good life!パンとカフェから人の輪が広がる

ソーシャルアパートメント・ネイバース立川の1階には、表参道の名店「パンとエスプレッソと」とコラボレーションしたベーカリーカフェ・ネイバースランチがある。朝、パンが焼き上がる香りで目が覚める……。ここでなら、そんな夢の生活を送れる。

取材・文/小川裕子



ネイバース立川の入居者用に、賃料に3,000円~10,000円プラスすると併設のベーカリーカフェ・ネイバースランチで3,500円~12,000円相当の飲食ができるプランが用意されている。自宅の1階が話題のベーカリーカフェなんて、本当にうらやましい。ネイバース立川のほか、護国寺にあるワールドネイバース護国寺もカフェを併設している。



ネイバース立川
(ネイバースランチ with パンとエスプレッソと)
東京都立川市錦町1-9-14
<http://neighbors-brunch.com/>

**中と外の人をつなぐ
交流の場を目指して**
東京都立川市にあるネイバース立川は、何と、ベーカリーカフェ併設型のソーシャルアパートメント。しかも「カフェは表参道の名店「パンとエスプレッソと」とのコラボレーションだ」という。焼き立てのパンを味わえるだけでなく、イトインもできるとあって、ソーシャルアパートメントの入居者にはもちろん、近隣の人々にも大人気。でもなぜ、カフェを併設したのだろうか。石田さん(↓44、45ページ参照)によると、「ソーシャルアパートメントは、ただ単に入居者同士が交流する場ではなく、中と外、入居者と近隣のみならずとの交流の場でもありたいと考えています。飲食店の併設はそのための仕掛けなんです」。

仕掛けは今のところ大当たり。入居者と近隣住民が共同でイベントを行うなど、ネイバース立川を中心に人の輪がどんどん広がっている。

SOCIAL APARTMENT

OTOWA神戸元町

防音スタジオ完備のコンセプト型ソーシャルアパートメント

入居者同士の交流というソーシャルアパートメント本来の目的に、誰も身近な音楽をプラスしたのがOTOWA神戸元町だ。一般賃貸で、音漏れを気にせず音楽に没れる物件なんてめったにない。音楽を媒介に、これからどんなつながりが生まれるのだろう。

取材・文/小川裕子



OTOWA神戸元町は、関西初の新築ソーシャルアパートメント。2階の共用部には、約80㎡デザイナーズラウンジ、バンドセットやデジタルピアノが入った防音スタジオ2室、シアタールームがある。個室はキッチン、バス、トイレ、独立洗面台、大きな収納スペース付き。疲れているときや一人でんびり過ごしたいときは、自室に「おこもり」もできる。



OTOWA神戸元町
兵庫県神戸市中央区中山手通4-3-5
<http://kobe-project.social-apartment.com/>

**いつもそばに
音楽がある暮らし**
2015年10月にグランドオープンしたOTOWA神戸元町(所有:安田不動産株式会社)は、グローバルエージェンツが運営するソーシャルアパートメントのなかでも際立ってユニークだ。「音楽も生活もスタイルがすべて」をコンセプトに、デザイナー集団がインテリアを監修。そのうえ、YAMAHAの楽器がずらりと並んだ防音スタジオを完備している。いうまでもなく、入居者はいつでも無料で利用可能。「No Music, No Life」を座右の銘に掲げる人たちにとっては待望の住まいに違いない。

OTOWA神戸元町の住人すべてがバンドマンというわけでも、楽器奏者というわけでもない。けれど、入居をきっかけに楽器演奏を始める人もいるだろう。そしていつか、入居者同士で組んだバンドがメジャーデビューするかも……。そんな無限の可能性がここにはある。